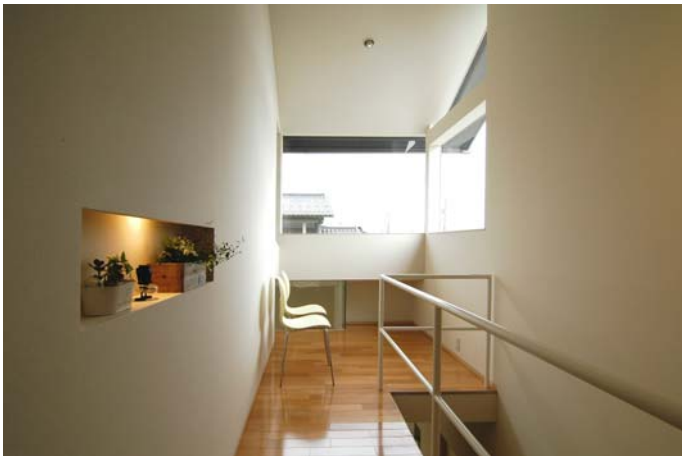




ホームルームが緩衝空間となり、居間・ 食堂は落ちつき、冬暖かく、夏涼しい。



外観 街並を考慮して杉板張りに。



ヒーリングスペース 階段上り口の一部を癒しの場とした。左には山が、右には田園風景が広がる。



通りの間（多目的・緩衝空間）のある家

「通りの間」とは

個室の行き来に必ず通る空間です。玄関から各室をつなぐ廊下・階段室をまとめて少し広げたスペースです。大家族で住んでいた昔の家には何でもない余空間がありました。今の時代、家族と暮らすに効果的な余空間として意図しています。わずかに広げることで以下、いろんな生活シーンが考えられます。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 第2の居間 | 暑さ・寒さの緩衝空間となる |
| 遊び場、走る、のぼる、 | 騒音の緩衝空間にもなる |
| なわとび、相撲 | 家族の通りみち |
| 体操や軽い運動も可 | 気持ちが晴れる空間 |
| 個室ではしにくい、のこぎり・ | 温室にもなる |
| カンナの作業も | 植物・ベッドの手入れ |
| 日曜大工・手伝いもしやすい | お茶するティーコーナー |
| サンルーム・縁側・ひなたぼっこ | 景色、木々を見てヒーリング |

2009年度 石川県建築賞 受賞

所在地 白山市
 延べ面積 218㎡
 構造規模 木造 2F
 施設内容 専用住宅
 設計監理
 アーキ・アーバン建築研究所 + 中出喜美男
 TEL 076-222-3916

洗面、浴室、共に高窓から陽光を入れ青空も月も見えるようにした

食堂・リビング・仏間は通りの間が緩衝空間になっているので、おちつく。冬暖かく、夏涼しい空間となる。

多湿土なので、やむなく全面コンクリート舗装とした。



父上の杉柱

お姉さんのお里帰りの部屋

母・姉のゾーンは、仏間をワカションとして、プライベートを保つ。

騒音の西側道路から離れること・上り坂道路からの視線対策で1階床高さを上げるべく、敷地地盤の高い東へ寄せた。

以前の家の基礎石を再利用

通りの間（多目的・緩衝空間）を設けることで、ふれあいの中に家族を育む。良い家族関係が保たれる事を期待しています。

桜をそのまま残した

上り坂からの視線に配慮した

1階配置平面図

「通りの間」

玄関から各室をつなぐ廊下と階段室をまとめて少し広げた空間。個室への行き来に必ず通る空間です。気まずいこと等があっても、そこは家族。顔を合やす機会が多ければそれが高じることは少なくなるのでは。誰かが、子供が、そこで遊んで、趣味しているのを見ると言葉もかけるし、又、なごみも出る。心も晴れる。・・・を期待して。

- ① 外でつらいこと等あっても、通りの間で、まず家族の誰かと顔を合やす。無理やりの笑顔でとりつくろったりしたとしても、それがきっかけで少し心は晴れるのでは。
- ② 大胆に空や木樹が見えるので、自然感で気持ちが晴れるきっかけを期待しました。癒される効果も。
- ③ 多目的スペースでもあり、軽運動・日曜大工・アウト植物等、半屋外の気分になれる多目的空間。何より子供の育ち場。又、あまりして欲しくはないのですが、冬の物干や布団干場にも。北陸ではあると良い空間です。
- ④ 居間、食堂、仏間への緩衝空間となります。外からの視線・暑さ・寒さ・騒音、～等からの。